

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701711		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	八幡西ケアセンター和が家	ユニット名	もも
所在地	福岡県北九州市八幡西区御開3-9-53		
自己評価作成日	平成23年8月27日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月16日	評価結果確定日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の毎日が日々、楽しく、安心して暮らすことができるように、コミュニケーションを深め、要望やニーズに合わせた、季節行事やレクリエーションを企画して、身体的・精神的に活動性が高まるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念が記載したボードをフロアに掲げ、毎日唱和しています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域運動会の参加や地域ボランティアの受け入れ、自治区会長や民生委員の参加した運営推進会議など日常的に交流しています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々と認知症利用利用者との交流機会を日々の近隣の散歩や地域住民との合同避難訓練などで増やすことによる認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族・自治区会長・民生委員・近隣施設職員(知見者)、地域包括支援センター職員(北九州市職員)が参加し、忌憚のない意見交換を行っている。会議内容は、部署ミーティングで職員に伝達され、会議議事録は、閲覧できるようになっている	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市町村担当者(地域包括支援センター職員)が参加しており、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為を部署ミーティングで確認し、事業所の介護サービスが身体拘束に該当していないかの確認と、身体拘束を実施している際、実施状況と継続の有無を議論しています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待となる具体的な行為を部署ミーティングで確認し、事業所の介護サービスが高齢者虐待に該当していないかの確認を行っています。	

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に利用者において権利擁護を活用していたため、日常生活自立支援事業や成年後見制度について周知できている。玄関にパンフレットを設置しており、その必要性を話し合い、活用できるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、変更時に、重要事項説明書を用いて、書面にて説明、確認を行い、理解・納得を図っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、利用者や家族等が意見、要望を伝えられるようにしている。また、その意見・要望はケアプランに反映させ、介護サービスに活かしている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署ミーティングにおいて、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度、自己評価を行い、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与算定に反映させている。また、代表者との面談は随時設けられ、職員が直接、意見を述べ、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備が行えるようになっている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別や年齢等の制限を設けず、幅広く行っている。採用後は、研修期間を設け、まず業務に慣れることを優先し、研修期間でその職員の個性を把握することで、職員自身の能力を発揮し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に、「和が家職員心得」にて、職員に対し、人権教育・啓発活動を説明。研修期間においても、接遇方法の指導を通じて、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年に1度の自己評価にて管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、北九州市社会福祉研修所主催の研修や部署ミーティングにおける認知症ケア研修にてトレーニングをすすめている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の特別養護老人ホームやグループホームとの連携の中で職員間の交流機会を設け、サービスの質の向上を図っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の今までの生活をなるべく維持できるように、入所前に在宅での生活状況や要望や不安を傾聴し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学を行い、ご家族の質問や要望を確認し、納得、安心して入居していただくことにより関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活の様子や介護方法を説明し、当サービスを利用することで本人・家族等を支援できるかを見極め、必要に応じて、併設の他サービス事業への促しを行っている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活暦や身体能力、認知度を把握し、ともに生活を行う中での役割や支援を考え、理解し協力し合える関係作りに努めています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支援する仲間として、日々の生活状況の報告・相談・連絡を行うとともに、ともに参加できる行事の企画や参加の促しを行うことで協力して支えていけるように支援しています。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問したり、思い出の場所に出かけたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	利用者同士の意思疎通や共同作業が行えるように職員 が仲介役となり、一人ひとりが孤立せず利用者同士が 関わり合い、支え合えるような支援に努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	退去し、サービス利用(契約)が終了しても、医療機関 や入所施設との連携を必要に応じて行い、本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部署ミーティングや日ごろの申し送りの中で、利用者 状況の把握とともに、本人様の希望、意向の把握を 介護職員間で話し合い、接遇方法を修正しています。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・ご家族さまから情報を提供していただき、 情報シートとして、全職員が把握できるようにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	生活日誌や健康日誌の記録にて、一人ひとりの一日の 過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に 努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	ケアプラン作成時にご家族・本人様の意向を重視し、 主治医・看護職員などの専門職の意見を反映し ながら、現状に即した介護計画を作成している		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌・健康日誌・経過記録・申し送り表などの 個別記録を考慮しながら、職員間で情報を共有し 実践や介護計画の見直しに活かしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している居宅介護支援事業所や通所介護事業所との連携により本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉ボランティアや自治区会・消防団と連携し、運動会などの地域行事の参加・自治区会や消防団との合同避難訓練を行い安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、治療箇所にあわせて、本人及び家族等の希望するかかりつけ医と事業所が連携し、医師からの指示に従いながら、適切な医療を受けられるように支援している		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを朝礼や申し送り時に伝達・相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣救急医療機関と当事業所主治医との連携が築けており、入退院時には、救急医療機関医師より病状や治療方法などの説明が家族同様にあり、主治医へも情報提供が行われる。また、入院中においても、病院関係者との間で利用者情報の共有が行われる		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当事業所における看取りの方針を説明し、ご本人・ご家族に対し、早い段階から話し合いを行う。また、看取りが必要になった場合においては、主治医・本人・家族・看護師・管理者との間で再度、看取り時の対応方法を確認している。また随時、近隣事業所において発生している看取りについての取り組み方法を学び、地域の関係者ととも、支援に取り組んでいる		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、AEDを用いた急変時や事故時の応急手当や初期対応訓練を実施し、実践力を身に付けている。また、感染症予防対策など時期に合わせた対応方法も看護職より指導があり、身に付けている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難場所を災害時ハザードマップにて確認している。また、年2回の避難訓練は、地域の関係者も参加し、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修時に接遇方法の指導の中で身に付け、継続的に部署ミーティングで接遇方法の見直しや確認の中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の継続できているかどうか検証している		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望されることが表現できるように支援し、日々の生活のなかで自己決定により選択でき機会を増やしています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調や精神面の起伏を考慮し、朝・夕の職員間の申し送りの中で業務ペースの見直しを行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所に併設して理美容室があり、定期的に訪問理美容業者を招いて、カットを行っている。また、外出や行事を増やし、身だしなみやおしゃれができる機会を増やしている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が栄養面や食事摂取力を考慮した献立や食事形態を考え、食事提供を行い、ともに食事できるようにしています。また、食事が近づくと利用者に声かけを行い、職員と一緒に準備や片付けをしている		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取・食事摂取量を記録し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、利用者ごとに口腔内の状態に合わせた支援を行っています		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮し、排泄リズムに合わせた声かけにより排泄の自立支援を行っています。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動などの活動性の確保と腹部マッサージ、栄養士による繊維質の高い野菜や乳製品を食事に取り入れることで便秘の予防に取り組んでいます。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調を確認し、入浴時は利用者とのコミュニケーションの場として、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援しています。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神的に落ち着いて安眠できるように、就寝前は穏やかな声かけや衣類・寝具などを整えて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や受診記録を確認し、薬の効果や服薬方法、ご利用者の病状を把握し、病状と服薬の関連を理解して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせてレクリエーションの提供または家事訓練などの生活リハビリを職員とともに、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています		

福岡県 八幡西ケアセンター和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を確認しながら、一人ひとりのその日の希望にそって散歩やドライブなど季節を感じられる場所や思い出の場所へ外出しています。また、外出場所においては下見をし、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるようにしています。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご自身で管理している方もいますが、利用者一人ひとりの現金を事業所で管理し、ドライブや散歩など外出し、買い物が行える場合は、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望に合わせて電話や手紙のやり取りができるように支援しています。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者とともに作成した壁画を季節ごとに変えて、季節感のある、温かく、家庭的な雰囲気作りを工夫しています。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養の場でも自分の居場所がもてるようにソファや椅子の配置や向きを工夫しています		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さまの写真や思い出の品を飾ったり、使い慣れた家具やベット、寝具などの持込を行って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に写真を貼るなど目印や名前を書いて生活空間がわかるように工夫しています。		